



JACET通信

大学英語教育学会

November 2002

The Japan Association of College English Teachers

No. 135

巻頭言

JACET 会員一人一人の新たな課題

北海道支部長 森永 正治

英語教育をめぐる情勢が俄かに慌しくなってきた。震源は文部科学省が本年7月に公表した「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」である。「国民全体に求められる英語力」「英語教員の資質の向上」など、各地の研究会でも議論が沸騰している。個人的には「戦略」などという物騒な言葉遣いは避けて欲しかったが、いずれにしても、JACET会員一人一人に、避けては通ることのできない新たな課題が与えられたようである。我がJACETも、今年度の全国大会において、「一貫制の英語教育—小学校から大学まで—」というテーマの下、シンポジウム等が開かれ、前記「戦略」に対応すべく幾つかのプロジェクト・チームも結成された。どんな結論が報告されるか、楽しみではあるが、我々の進むべき道が、常に不易と流行の間を行き来するものであることも確かなことである。

1962年の秋、財団法人・語学教育研究所（以下語研）の大学部会というのが何年かあった後に、「同部会を独立させて大学英語教育学会に改組し、必ずしも語研にとらわれない運営をするほうがよい」ということで、東京外国語大学の新しい講堂で創立大会が開かれた学会こそがJACET（『JACET通信』第11号、1972）であった。今春ご他界された若林俊輔氏が、「JACETで、中学校・高等学校の学習指導要領を作ったらどうか。」という提案を一度されたことがある。「JACETは、大学における英語教育を研究する団体だから、中・高まで考えるのはむずかしい」との理由で「半笑」に付けされたそうである（『JACET通信』第28号、1977）。語研では、児童英語教

育部会を含め幾つかの部会が活発に研究実践活動を継続し、毎月・毎年その成果を発表している。JACETが児童英語教育等に関して、俄仕立ての勝手な発言をすることは差し控えなければなるまい。時代の流れとともに学会活動の内容も変化するものではあろうが、先行研究を重視するJACETとしては、この度の「一貫制」の議論の前には、JACETの根幹に関わる、このような経緯や足跡もしっかりと踏まえた議論をしておくべきではあるまいか。

『わが国の外国語・英語教育に関する実態の総合的研究』（JACET実態調査委員会、2002）によれば、現在の大学英語教育の状況は誠に貧弱と言わざるを得ない。一例を挙げれば、英語の必修単位の大学が14.2%、6単位以下が65.0%ということである。ましてや英語以外の外国語が必修となっている大学は半数に満たない。さらに、少子化傾向による大学自体の存続の危機等、様々な困難も厳しさを増し、統合再編問題も抱え、英語教育に心おきなく情熱を捧げることもままならない状況も見られる。これがJACET40年の成果なのであろうか。このような大学及び外国語・英語教育の実情では、果して、文部科学省の言うような「国際社会に活躍する人材等に求められる英語力」を学生達に付けさせることができるか、悲観的な声が数多く聞かれるのも致し方ないことかもしれない。

しかし、我々JACET会員は、英語教師の中でも先導的存在であるはずである。前向きに、文部科学省の「戦略」の実現に取り組む必要は確かにある。しかし、「揺りか

ごから墓場まで」の日本人のあるべき言語環境についての根本的な議論が先であるべきである。若林氏の主張した中学校・高等学校のみならず、幼稚園から高齢者教育まで、JACETのリードで、言語教育（日本語・外国語そして英語）の構想を練り上げたい。英語以外の外国語の学会とも連携して、「21世紀地球社会に立派に活躍できる日本人の持つべき言語構想」を策定したい。その中で、確かな英語力を学生達に獲得させる努力を継続したい。一人では不可能でも、JACET活動の中で、できることはいろいろあるに違いない。そのために、JACET会員一人一人の一層の奮起が望まれているのである。

事務局より

代表幹事 中野 美知子

- 1 将来構想委員会：11月8日 森住、神保、中野で12月27、28日に開催される将来構想委員会に向けて検討すべき話題と問題点を検討した。
- 2 定期刊行物の文部省出版助成金応募について現在進行中である。
- 3 JACET名簿は現在印刷所に手配が完了したところである。

支部便り

<北海道支部>

- 1) 第1回研究会および第1回運営委員会の開催
日時：5月18日（土）13：00-17：00
場所：北海道大
研究会：
「ビクトリア大学のCALL施設とオーサリングソフト(Hot Potato)について」
(上野之江・北海学園大)
「電子会議室を核にした姉妹校交流—国際理解教育の実践から」
(横山吉樹・北海道教育大岩見沢校)
運営委員会：予算・決算、行事報告及び支部大会について審議。15周年記念論文集について経過報告および発行の承認。研究会特別経費について審議および配当の承認。
- 2) JACET北海道支部CALL研究会講演会の開催
日時：6月8日（土）13：00-15：00
場所：北海学園大

Technology Integration and Distance Education
(Dr. Lorraine C. Beaudin・Univ. of Lethbridge, Canada)

- 3) 第17回JACET北海道支部大会の開催
日時：7月6日（土）13:00-17:50
場所：小樽商科大
総会：前年度行事活動及び会計報告並びに監査報告。本年度行事予定及び予算の審議。支部役員の退任及び新任について承認。
講演：「矛盾する社会環境の中の英語教育」
(JACET会長田辺洋二・早稲田大)

研究発表：

「文法メタファー表現と認知的体系学習理論に基づく折衷的指導の実践研究」

(中島隆智・北海道教育大旭川校)

「高等専門学校英語教育に求められている教授法に関する考察」

(工藤雅之・札幌市立高専)

シンポジウム：「大学生の英語力低下に対する防止策を探る」

司会：高井収・小樽商科大、

講師：要春光・北海道武蔵女子短大、

佐々木勝志・北海道文教大、

中屋晃・北星学園大

ワークショップ：

「初心者のためのホームページ作成講座」

(上野之江・北海学園大)

- 4) 第2回運営委員会および第2回研究会の開催

日時：11月9日（土）11：00-15：30

場所：藤女子大

運営委員会：全国理事会の報告。研究会・特別研究費・支部論文集の継続について審議。

研究会：シンポジウム「英語が使える日本人の育成」

司会：高井収・小樽商科大、

講師：栗原豪彦・北海道大、

早坂慶子・北星学園大、

上野之江・北海学園大)

(河合 靖・北海道大)

<東北支部>

1. 4月から7月までの活動について
 - ・ 2002年度第1回役員会
日時：2002年6月8日（土） 12：00-13：30
 - ・ 2002年度東北支部大会
日時：2002年6月8日（土） 14：00-17：40
講演 講師：村田 年（千葉大・JACET理事）
演題：「学習語彙の問題点と効果的な語彙指導」

シンポジウム

テーマ：「語彙指導の理論と実際」

・ 東北支部講演会

(日本英語音声学会東北支部と共催)

日時：2002年6月29日(土) 16:10-17:10

講演 講師：Dr. Hyun Bok Lee

(ソウル国立大名誉教授)

演題："What Is Wrong with Japanese English ?

— A Survey of English Pronunciation Errors —

・ 東北支部例会 (秋田英語英文学会と共催)

日時：2002年7月6日(土) 14:00-16:30

シンポジウム：

テーマ：「英語科総括的評価の妥当性 -
最終成績は本当に英語力を反映しているのか?」

2. 今後の予定

1) 講演会(秋田英語英文学会と共催)

場所：秋田大学手形キャンパス

日時：11月30日(土) 16:00-17:30

講師：Professor David Ingram

(Griffith Univ., Australia)

演題：Effect of Foreign Language Learning
on Cross-Cultural Attitudes

(外国語学習が異文化に対する意識に
及ぼす影響)

2) 12月例会(研究発表例会)

場所：東北学院大土樋キャンパス

日時：12月7日(土) 14:00-17:00

内容：研究発表および討議、

例会終了後東北支部忘年会開催予定

(佐々木雅子・秋田大学)

<中部支部>

1. 文部科学省「一貫性カリキュラムプロジェクト」について

中部支部からの提言(チームリーダー、山中秀三・
名古屋女子大学)を10月末に本部に報告した。

2. 講演会

日時：2002年11月23日(土)

場所：名古屋女子大学汐路キャンパス

講演者：David Ingram・グリフィス大学

演題："Bridging the Gap: Towards More Authentic
Language Proficiency Assessment"

3. 講演会

日時：2002年11月28日(木)

場所：名古屋市中区錦3-22-20「マナハウス」6階

講演者：Henry Widdowson・ウイーン大学

演題："Text and Pretext in Language Use and
Learning"

(原田邦彦・名古屋外国語大学)

<関西支部>

主な活動：

a) 第1回研究企画委員会：

2002年6月9日(日) 於、関西大学

議題：年間活動計画、春季・秋季支部大会等について
研究会代表者会議：各研究会活動計画、研究会活動広
報へのホームページの利用について

b) 2002年関西支部春季大会：

2002年6月9日(日) 13:00~17:40; 於、関西大学

大会テーマ：「英語教育の意識改革-JACETの使命」

当日のプログラムはワークショップ2件、研究発表
3件、支部総会、講演から成り、123名の参加者を
得て盛会であった。

ワークショップ：1)

「英語学研究の英文法指導への応用」

司会：岡田伸夫(大阪大)、

発表者：菅山謙正(神戸外国語大)

赤野一郎(京都外国語大) 岡田伸夫

ワークショップ：2)

「授業の活性化をめざして-ESP的アプローチに基づく
教材作成の実際」

司会：椋平淳(大阪工業大)、

発表者：椋平淳、渡海淳子(近畿大)

松岡結(近畿大)

研究発表：司会：林宅男(桃山学院大)

発表：1) 京都教育大学院生・Yang Tao

"Turn-taking analysis of Japanese EFL learners'
English"、

発表：2) 京都工芸繊維大・Paul Hackshaw

"Reliability studies on preparation TOEIC tests
used for teaching TOEIC at a Japanese university"、

発表：3) 大阪外国語大学院生・谷村緑、

三重大・吉田悦子、

園田学園女子大・中戸一子、

京都外国語大・石川保茂

「Pear story再考-日英語における指示表現の選択
とその要因について」。

この後、支部総会、田辺洋二JACET会長による講演

「JACETと大衆化する英語教育」があった。総会に

おいて審議された議案のうち、重要な事項の…つ

に関西支部紀要の投稿に関する件がある。2001年
度に運営委員会において作成された原案が総会で

承認され、従来の各研究グループの研究集録に新たに投稿原稿を加え、2本立てにすることになった。『JACET関西紀要』(JACET Kansai Journal)の投稿規定の詳細はJACET-Kansai Newsletter, No. 15に掲載。

- c) 講演会：2002年5月24日、於、帝塚山大学、
講師：Anthony Fox (Univ. of Leeds)
演題“Do we all speak different languages?”
- d) 第1回談話会：2002年7月6日(土)
於、コープイン京都、
講師：京都外国語大・赤野一郎、
演題：「コロケーションを中心とした明示的な語彙指導-コーパス言語学の視点から-」
- e) 第1回運営委員会：2002年7月6日(土)
於、コープイン京都
議題：2003年度春・秋季支部大会について
今後のJACETのあり方について
- f) 第2回研究企画委員会：2002年8月5日(月)
於、関西大学
議題：2002年度秋季大会研究発表等応募者の選考について、2002年度秋季大会プログラムについて、2002年度秋季大会役割分担について
- g) 第3回研究企画委員会：
2002年10月13日(日) 10:00~11:30
於、神戸市大学共同利用施設「ユニティ」
議題：2002年度秋季大会役割分担について、2003年度春季大会について
- h) 2002年度秋季大会：2002年10月13日(日)
於、神戸市大学共同利用施設「ユニティ」
大会テーマ：「英語教育の意識改革-JACETの使命-」
当日のプログラムは、実践報告2件、研究発表2件、シンポジウムであった。
- 実践報告1)
「『ことばの力』を伝える責任ある授業のあり方について」
司会：高木佐知子(大阪府立大)、
発表者：高橋昌由(大阪府立箕面高等学校)
- 実践報告2)
「英語圏副授業の実例報告-大阪大学大学院工学研究科における取り組み-」
司会：高木佐知子(同上)
発表者：堀井祐介(大阪大)
- 研究発表1)
「形態論のレベルにおける母語の転移-心理動詞と非対格動詞を中心に-」
司会：松浦勉(大阪青山短期大)

発表者：佐藤燕子(ブール学院大)、
研究発表2)「アメリカ合衆国の外国語教育-National Standards in Foreign Language Education Project から見えてくるもの-」
司会：松浦勉(大阪青山短期大)

相川真佐夫(和歌山信愛女子短期大)
シンポジウム
「IT時代の英語教育-機械翻訳・CALLの立場から-」
コーディネーター：吉田信介(摂南大)
横川博一(京都外国語大)
パネリスト：
成田一(大阪大)
「機械翻訳研究の発展と英語教育への応用」
金田正也(元名古屋学院大)
「英語教育・研究へのPCの活用」
竹内理(関西大)
「CALL:How much of a panacea?
(CALLは万能薬たりうるか?)」

(早岡ゆかり・大阪産業大、東眞須美・神戸芸術工科大)

<中国・四国支部>

平成14年度第1回支部研究会

日時：2002年11月16日(土) 10:30~16:00

場所：広島大学東千田キャンパス

研究発表(11:00~13:30)

1) “A Study on the Corpus-based English Textbook Design System”

宋富云(広島大学院)

2) 「「英語らしさ」の観点からみたコミュニケーション能力の育成-無生物主語他動表現の場合」

三宅美鈴(広島国際大)

3) 「擬似初心者による英語と母語の認知プロセスについて」

中村朋子(広島国際大)

4) “L1 Japanese High School Literacy Training: Student and Teacher Perspectives”

小林ひろ江(広島大)

講演(14:20~15:50)

「フィリピン英語こ学ぶ」 小野原信善(香川大)

(鳥越秀知・詫間電波高専)

<九州・沖縄支部>

10月12日、九州・沖縄支部第17回研究大会が筑紫女学園で開催された。「我が大学の英語教育」を統一テーマとするこの大会は、多くの支部会員とともに、韓国の韓国ヨンナム英語教育学会 (YETA) から、Myung-Yeol Kang 教授(Tongmyong Univ. of Information)とMae-Ran Park 教授(Pukyong National Univ.)、JACET本部から田中慎也理事(桜美林大)を迎えた。

午前には11の研究発表があった。昼食の後の支部総会では、島谷浩先生(熊本大)を議長に選出し、新旧役員交代承認、事務局報告などの議事を進行するとともに、本支部との長年に渡る学術交流にご尽力された Soo-Woong Ahn教授(YETA元会長)への感謝状贈呈がおこなわれた。なお、名本幹雄元支部長・筑紫女学園大学学長は、同様の表彰をすでにYETAから受けている。

総会後、Mae-Ran Park教授による記念講演“Target Language Use in the EFL Classroom: The Current Situation in Korea”があり、多くの聴衆の注目を集めた。

支部大会の締めくくりとして、シンポジウム「我が大学の英語教育」が開催された。コーディネーターの福岡龍明氏(福岡国際大)を中心として、パネリストの大津教史氏(福岡大)、島谷浩氏(熊本大)、横山彰三氏(宮崎医科大)による実践を踏まえた英語教育論が展開された。なお、田中理事にもコメントャーとして参加いただいた。

また、志水俊広氏(九州大) 司会による大会終了後の懇親会も盛会となった。

大会翌日の13日には、「文部科学省戦略構想対応プロジェクト」に対応するJACETの検討課題のうち、九州・沖縄支部担当の「教員養成プロジェクト: 指導法研究及び有効な教員養成・研修プログラムの作成」についての自由討議を、鈴木千鶴子支部長(長崎純心大)を中心としておこなった。

支部大会を除いた8月以降の主な活動やすでに確定している今後の予定は、次の通り:

8月9日 ディベート教育フォーラム(九州大学)主催のLoke Wing Fatt氏(シンガポールDirector, 3L Education Services)による“Samurais with Word-Swords: International Debating in English in South East Asia”を後援。

9月15日 ESP研究会による「第2回ESP研究会ワークショップ」を熊本大学で開催。

11月25日 H. G. Widdowson教授の学術講演会(演題“Text and Pretext in Language Use and Learning”)を、British Council(福岡)との共催で開催予定。

なお、本支部の最新情報については、<http://www.n-junshin.ac.jp/JACET/> を参照。

上村俊彦(県立長崎シーボルト大)

月例研究報告

語彙の測定

望月正道・麗澤大

語彙力とは、サイズ、語知識の深さ、認知速度の3つの観点から測定すべきものである。しかしながら、応用言語学では、サイズ、語知識の深さの測定が中心であり、認知速度という観点からはほとんど研究がなされていない。サイズとは、どれくらい多くの語彙を知っているかである。語知識の深さとは、1語をどれくらいよく知っているかである。

語彙の測定は、さまざまな目的でなされる。目的には、学習者の語彙力の測定、学習の成果の測定、4技能と語彙力の関係の解明、学習者のレベルに合った教材の開発・選択、教育プログラムの成果の測定などが挙げられる。目的に応じて、適切な語彙テストを使用することになる。

これまでに提案されている語彙テストには次のようなものがある。受容的語彙サイズを測定するものとしては、2000語から10000語まで5つのレベルで組み合わせ法でテストするThe Vocabulary Levels Test (Nation 1990; 2001)、擬似語を含む60語について「知っている」「知らない」で回答するChecklist Test (Meara and Buxton 1987; Meara 1992)、1000語から7000語まで7つのレベルでテストする「日本人英語学習者のための語彙サイズ測定テスト」(望月1998)がある。発表的語彙サイズとしては、文脈で最初の数文字を与えられた目標語を完成するA vocabulary-size test of controlled productive ability (Laufer and Nation 1999)、30の刺激語に対する連想語を測定するLex 30 (Meara and Fitzpatrick 2000)、作文で使われた語を分析するThe Lexical Frequency Profile (Laufer and Nation 1995)がある。語知識の深さを測定するものとしては、学習者が1語1語について自己診断していくVocabulary Knowledge Scale (Wesche and Paribakht 1996)、連合的(paradigmatic)知識と連語的(syntagmatic)知識の深さを測定するWord Associates Test (Read 1998)がある。The LEX Project

(<http://www.swan.ac.uk/cals/calsres/free/free.htm>)は、理論的裏付けが公表されていないが、語認知速度を組み入れようとしている点で、興味深い語彙測定方法

である。英単語名人10000 (http://www.perapera.co.jp/docs/dl_eitango.asp) は、学習者には楽しい語彙学習プログラムである。

研究会開催予定

JACET月例研究会2002年度後期予定

JACET研究・講演委員会では次の要領で2002年度後期月例研究会を企画しています。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

参加費： 会員500円、非会員1000円

会場への交通案内：

東京電機大学 地下鉄丸の内線淡路町駅
千代田線新御茶ノ水駅、都営新宿線小川町駅
出口はいずれもB7
早稲田大学 地下鉄東西線早稲田駅

10月26日(土) 2:30-5:00PM

東京電機大学7号館4階7401教室 担当委員 清川馬場千秋 (東京国際大学)
「学習意欲の無い学生への指導—教師の意識改革と実際の指導」

望月正道 (麗澤大学) 「語彙力の測定」

11月16日(土) 4:00-6:00PM

早稲田大学16号館大会議室 担当委員 小谷、加藤
「英語カリキュラム改革と外部評価導入」

1) 東京電気大学のケース
小谷悠紀子(東京電機大学)

2) 茨城大学のケース
平野道代・中西貴之 (茨城大学)

11月30日(土)3:00-6:00PM (Reception含む)

The British Council, Tokyo
JACET・Oxford University Press・British Council
共催講演会

Prof Henry G. Widdowson (University of Vienna)
“Text and Pretext in Language Use and Learning”

参加費：無料 sekine@oupjapan.co.jpへ必要事項(氏名、所属、電話番号、メールアドレス、東京会場参加希望)を送信する。

2003年1月25日(土) 2:30-5:00PM

東京電機大学7号館4階7401教室 担当委員 長谷川
「日本で行われているユニークなバリンガル校の紹介：バイリンガリズムから見たユニークなカリキ

ュラム」

鈴木広子(東海大学教育研究所)

「国際学科一個を伸ばす教育」

河野円 (星薬科大学)

「発想の異なるカリキュラム—

インターナショナルスクール」

山下栄 (鶴見大学)

「ヘリテッジプログラム

—中国語を継承させる教育」

湯本和子 (神奈川県立外語短期大学)

「イマージョン教育—英語漬けプログラム」

JACET研究・講演委員会委員長 長谷川瑞穂

編集後記

11月号に原稿をお寄せ下さいました先生方、お忙しい中、ありがとうございます。今回の編集は、原稿がなかなか集まらず10月号が事実上11月号となりました。JACET通信が今後も会員の皆様の情報交換の場としてお読みいただければと願い編集を終わります。

(11月号担当：濱岡)

Table of Contents

Foreword (Morinaga, Masaharu)	1
Report from JACET Office (Michiko Nakano)	2
Chapter Reports	2
Monthly Meeting Reports	5
Monthly Meeting Information	6

2002年11月30日発行

発行者 大学英語教育学会 (JACET)

代表者 田辺 洋二

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55

電話 (03) 3268 9686

FAX (03) 3268 9695

<http://www.jacet.org/>

印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12

有限会社 タナカ企画

電話 (046) 251 5775